

桐生商工会議所管内
景況調査報告書

第153回

(2026年4～6月期)

令和8年8月

桐生商工会議所
桐生中小企業相談所

調 査 要 領

1. 調査目的 本調査は、当所管内事業所の経済動向及び現状を把握し、情報化社会に対応した企業経営の指針とするとともに、今後の経営支援の参考に資することを目的とする。

2. 調査時点 2026年6月1日

3. 調査期間 2026年4～6月期

4. 調査対象企業数 346企業（うち回答企業数130企業）

5. 調査対象業種

①建設業（回答企業数17企業）

建築・大工業、土木業、管工事業、とび・コンクリート業、鉄骨・鉄筋業、電気工事業、左官・屋根業、塗装業、板金業、その他

②商業・サービス業（回答企業数58企業）

卸売業、小売業、飲食業、サービス業

③製造業

機械金属関連業（回答企業数29企業）

鉄鋼業、金属製品製造業、一般機械器具製造業、電気機械器具製造業、輸送用機械器具製造業、精密機械器具製造業、プラスチック製造業、その他

繊維工業（回答企業数26企業）

撚糸業、織物業、染色整理業、ニット・メリヤス業、レース業、縫製業、刺繍業、その他

DIとは、ディフュージョン・インデックス（D i f f u s i o n I n d e x）の略で、このDIの変化を分析することにより経済動向の判断を行います。
このDIは、好転企業の割合から悪化企業の割合を差引き算出し、好転が悪化を上回る場合プラス（+）となり、逆に悪化が好転を上回る場合マイナス（-）となります。DIについては数値の水準のみならず、数値の変化がどういう方向を向いているかが重要です。

1. 景況の動き

【業況DI】

今期の業況DIは、全体で－１９。前期（－２２）比は＋３ポイントとなった。また前年同期（－２２）比では＋３ポイントとなった。

業種別では、**建設業－１８**（前期比－３、前年同期比＋３）、**商業・サービス業－２８**（前期比＋２、前年同期比＋５）、**機械金属製造業＋１０**（前期比＋２４、前年同期比＋２９）、**繊維製造業－２１**（前期比－６、前年同期比－１７）となっている。

【採算DI】

今期の採算DIは全体で－２８。前期（－２５）比は－３ポイント、前年同期（－２８）では±０ポイントとなった。

業種別では、**建設業－４１**（前期比－２６、前年同期比－３）、**商業・サービス業－３４**（前期比±０、前年同期比＋４）、**機械金属製造業－９**（前期比＋１０、前年同期比＋１４）、**繊維製造業－２３**（前期比－８、前年同期比－１９）となっている。

【来期業況DI】

来期の業況予測DIは全体で－１９。前期（－２８）比では＋９ポイント、前年同期（－２２）比では＋３ポイントとなった。

業種別では**建設業±０**（前期比＋１８、前年同期比＋２３）、**商業・サービス業－２９**（前期比＋３、前年同期比－２）、**機械金属製造業＋６**（前期比＋３０、前年同期比＋３４）、**繊維製造業－２６**（前期比－１、前年同期比－２１）となっている。

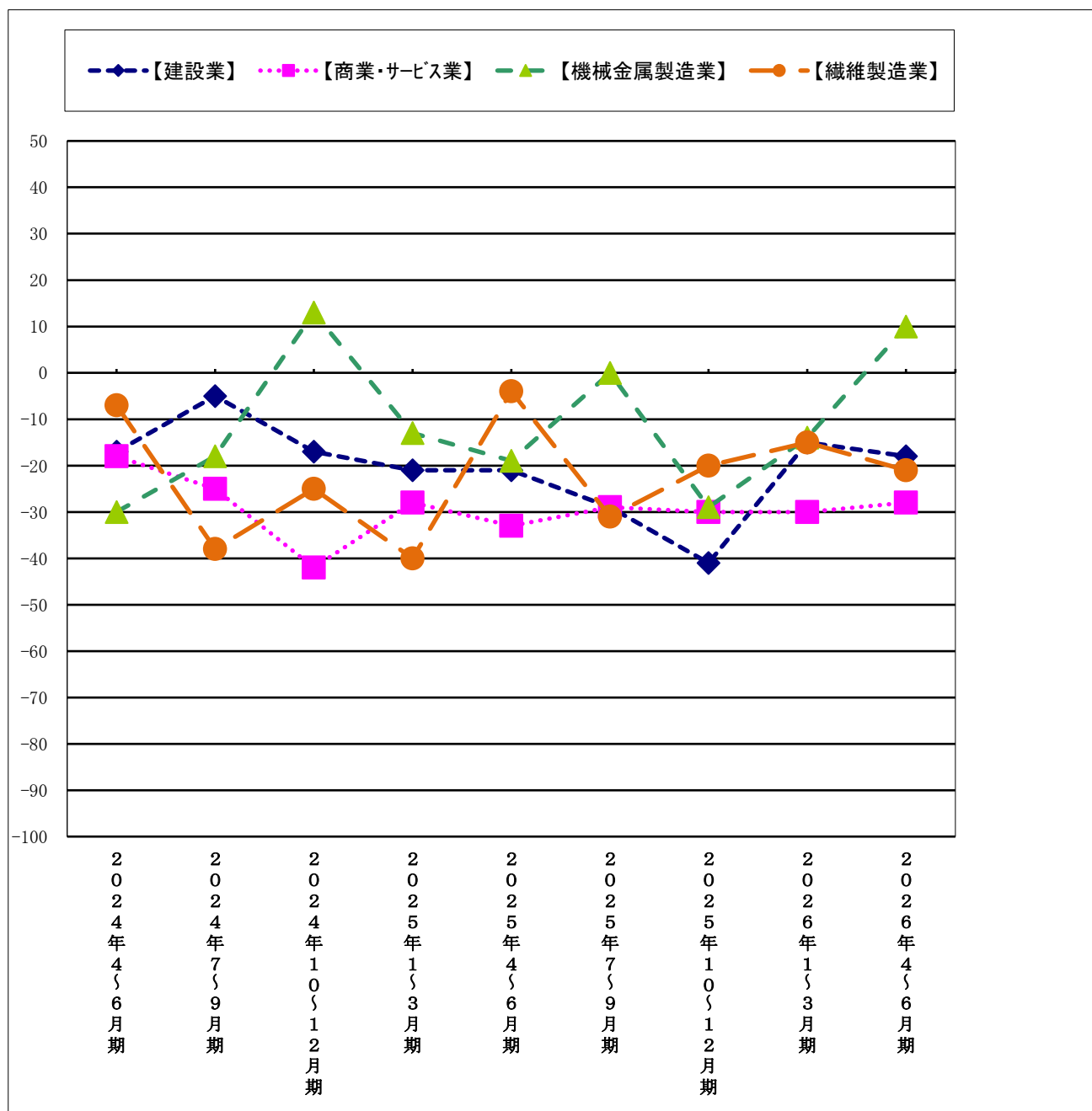
【経営上の問題点】

経営上の問題点としては、**建設業**では「材料価格の上昇」（29.8%）、「材料の入手難」（17.0%）、**商業・サービス業**では「材料等仕入単価の上昇」（15.5%）と「人件費の増加」（12.3%）、**機械金属製造業**では「原材料価格の上昇」（25.7%）、「人件費の増加」（15.7%）、**繊維製造業**では「原材料価格の上昇」（25.6%）、「人件費の増加」（10.3%）が上位となっている。

業況DIの推移

	【建設業】	【商業・サービス業】	【機械金属製造業】	【繊維製造業】
2024年4～6月期	-17	-18	-30	-7
2024年7～9月期	-5	-25	-18	-38
2024年10～12月期	-17	-42	13	-25
2025年1～3月期	-21	-28	-13	-40
2025年4～6月期	-21	-33	-19	-4
2025年7～9月期	-29	-29	0	-31
2025年10～12月期	-41	-30	-29	-20
2026年1～3月期	-15	-30	-14	-15
2026年4～6月期	-18	-28	10	-21

[2024年4～6月期] から [2026年4～6月期]



2. 業種別の今期の業況・来期の業況予測

【建設業】

- 今期業況 今期の業況D Iは－18。前期比では－3、前年同期比では＋3ポイントとなった。

業種別では、建築・大工業〔－60〕、土木業〔－33〕、管工事業〔±0〕、鉄骨・鉄筋業〔±0〕、電気工事業〔±0〕、左官・屋根業〔±0〕、塗装業〔±0〕、板金業〔＋100〕その他〔±0〕ポイントとなった。

- 来期業況 来期業況予測のD Iは±0。前期比＋18、前年同期比では＋23ポイントとなっている。

【商業・サービス業】

- 今期業況 今期の業況D Iは－28。前期比は＋2、前年同期比では＋5ポイントとなった。

業種別では、卸売業〔±0〕、小売業〔－48〕、飲食業〔±0〕、サービス業では〔－14〕ポイントとなった。

- 来期業況 来期業況予測のD Iは－29。前期比＋3、前年同期比では－2ポイントとなっている。

【機械金属製造業】

- 今期業況 今期の業況D Iは＋10。前期比では＋24、前年同期比では＋29ポイントとなった。

業種別では、鉄鋼業〔＋100〕、非鉄金属業〔－100〕、金属製品業〔＋40〕、一般機械器具業〔＋50〕、電気機械器具業〔±0〕、輸送用機械器具業〔±0〕、精密機械器具業〔±0〕、プラスチック製造業〔±0〕、その他〔－25〕ポイントとなった。

- 来期業況 来期業況予測のD Iは＋6。前期比＋30、前年同期比では＋34ポイントとなっている。

【繊維製造業】

- 今期業況 今期の業況D Iは－21。前期比では－6、前年同期比では－17ポイントとなった。

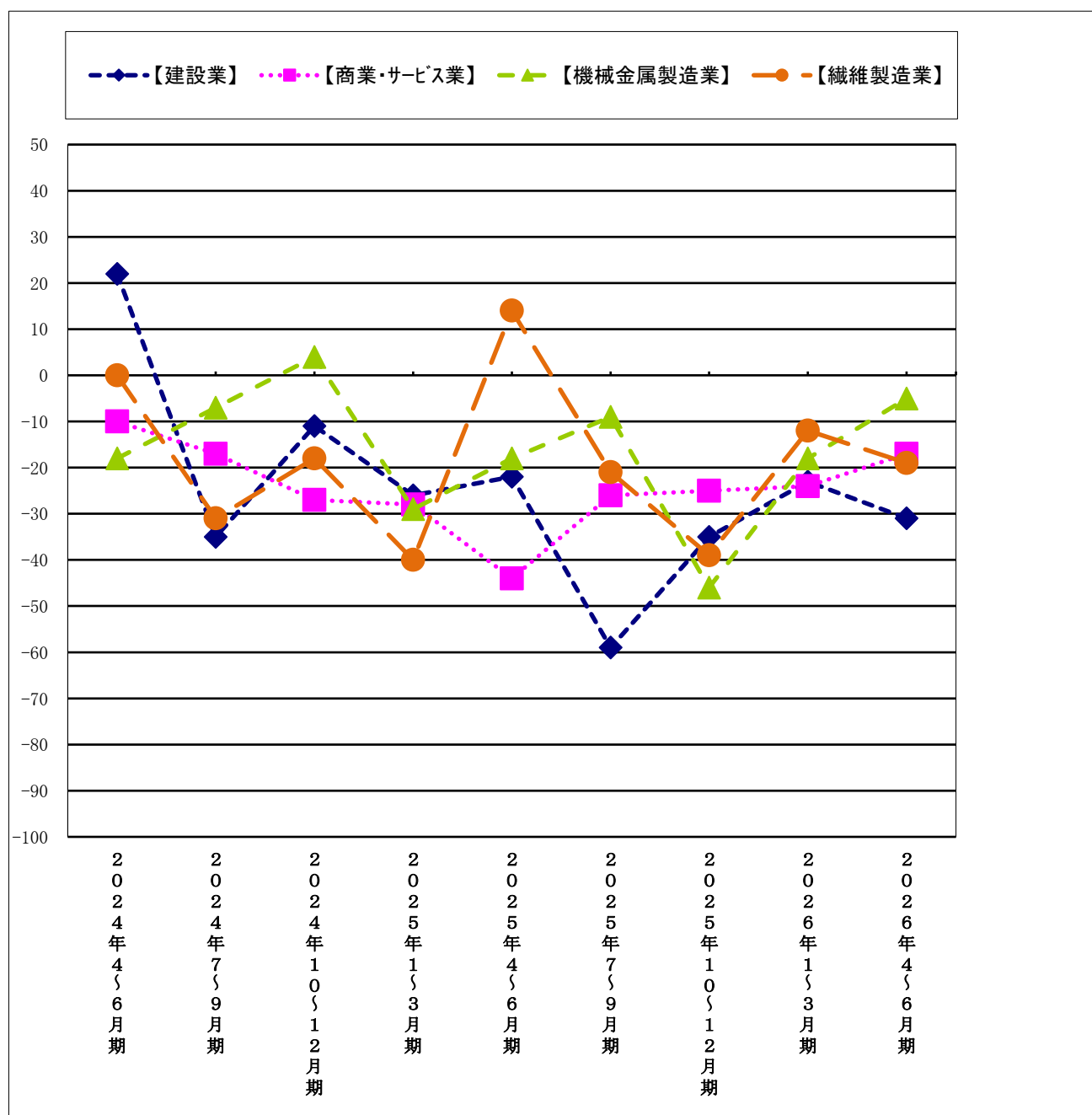
業種別では、捻糸業〔±0〕、織物業〔－33〕、染色整理業〔－25〕、ニット・メリヤス業〔－33〕、レース業〔±0〕、縫製業〔±0〕、刺繍業〔±0〕、その他〔－50〕ポイントとなった。

- 来期業況 来期業況予測のD Iは－26。前期比－1、前年同期比では－21ポイントとなっている。

売上額（完成工事額）DIの推移

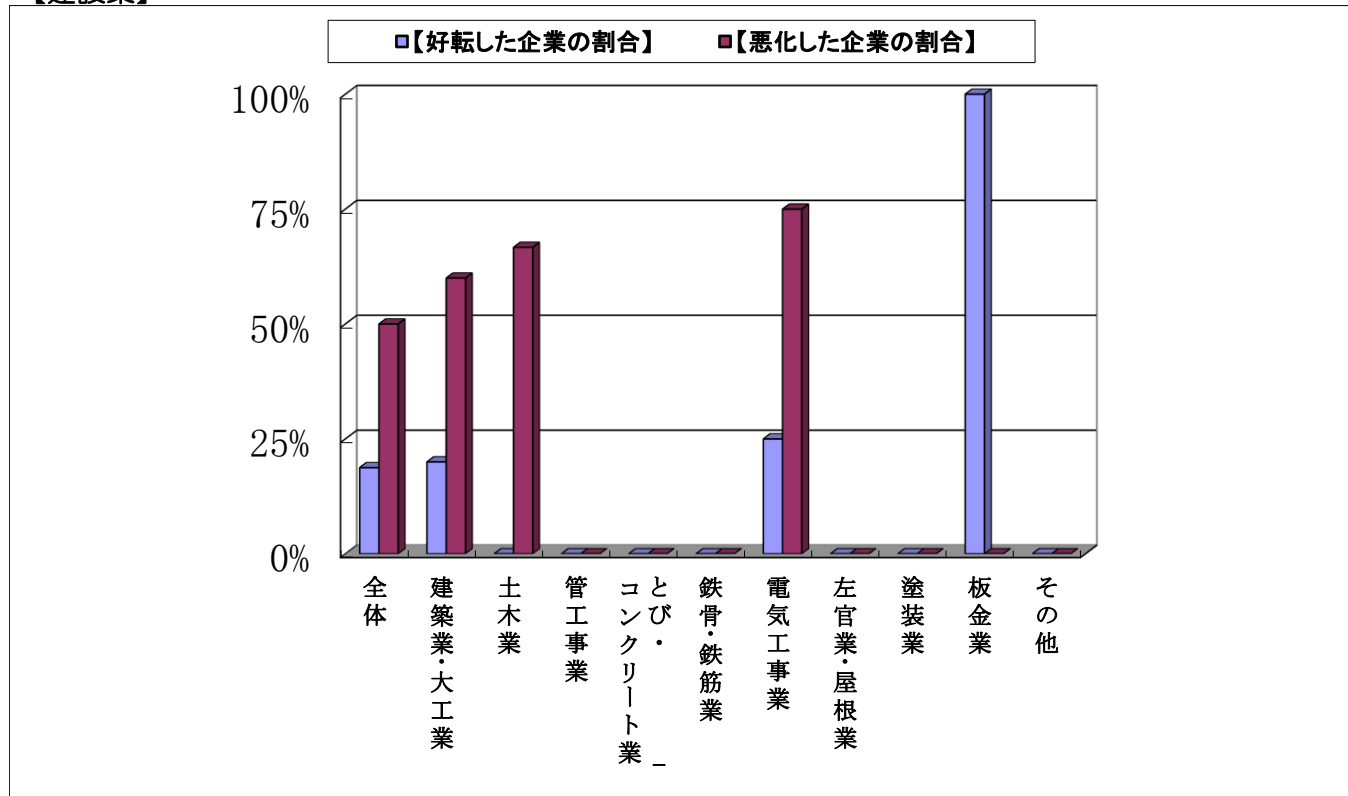
	【建設業】	【商業・サービス業】	【機械金属製造業】	【繊維製造業】
2024年4～6月期	22	-10	-18	0
2024年7～9月期	-35	-17	-7	-31
2024年10～12月期	-11	-27	4	-18
2025年1～3月期	-26	-28	-29	-40
2025年4～6月期	-22	-44	-18	14
2025年7～9月期	-59	-26	-9	-21
2025年10～12月期	-35	-25	-46	-39
2026年1～3月期	-23	-24	-18	-12
2026年4～6月期	-31	-17	-5	-19

〔2024年4～6月期〕から〔2026年4～6月期〕

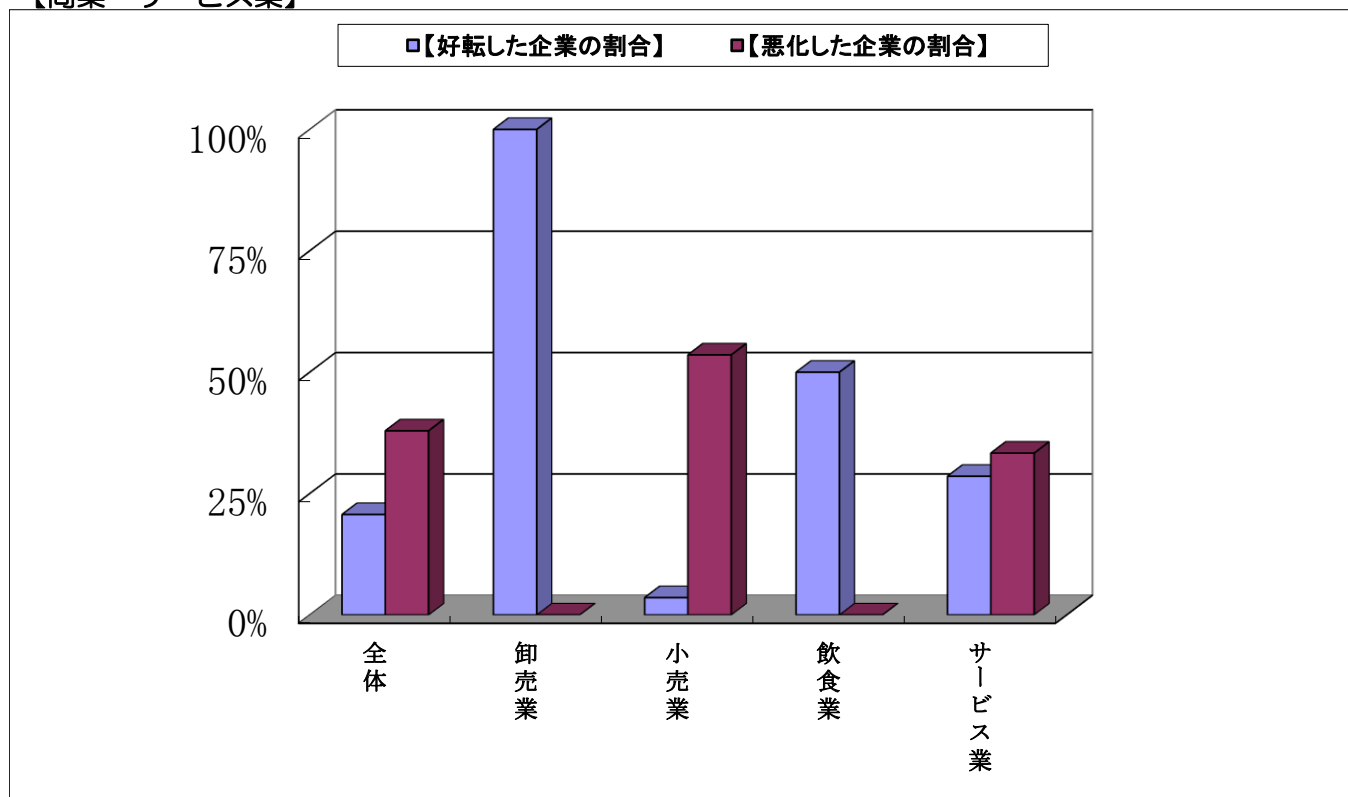


業種別売上額（完成工事額）の状況〈前年同期比〉

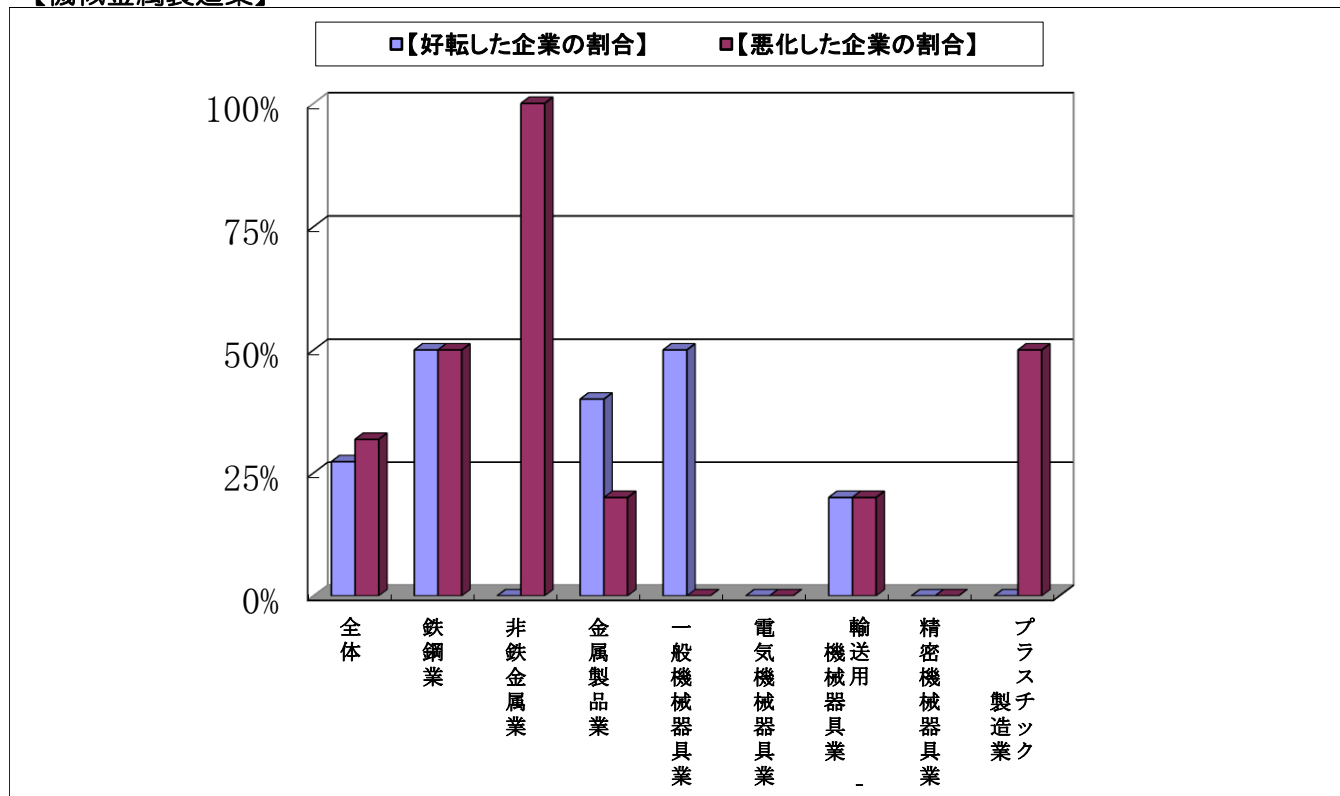
【建設業】



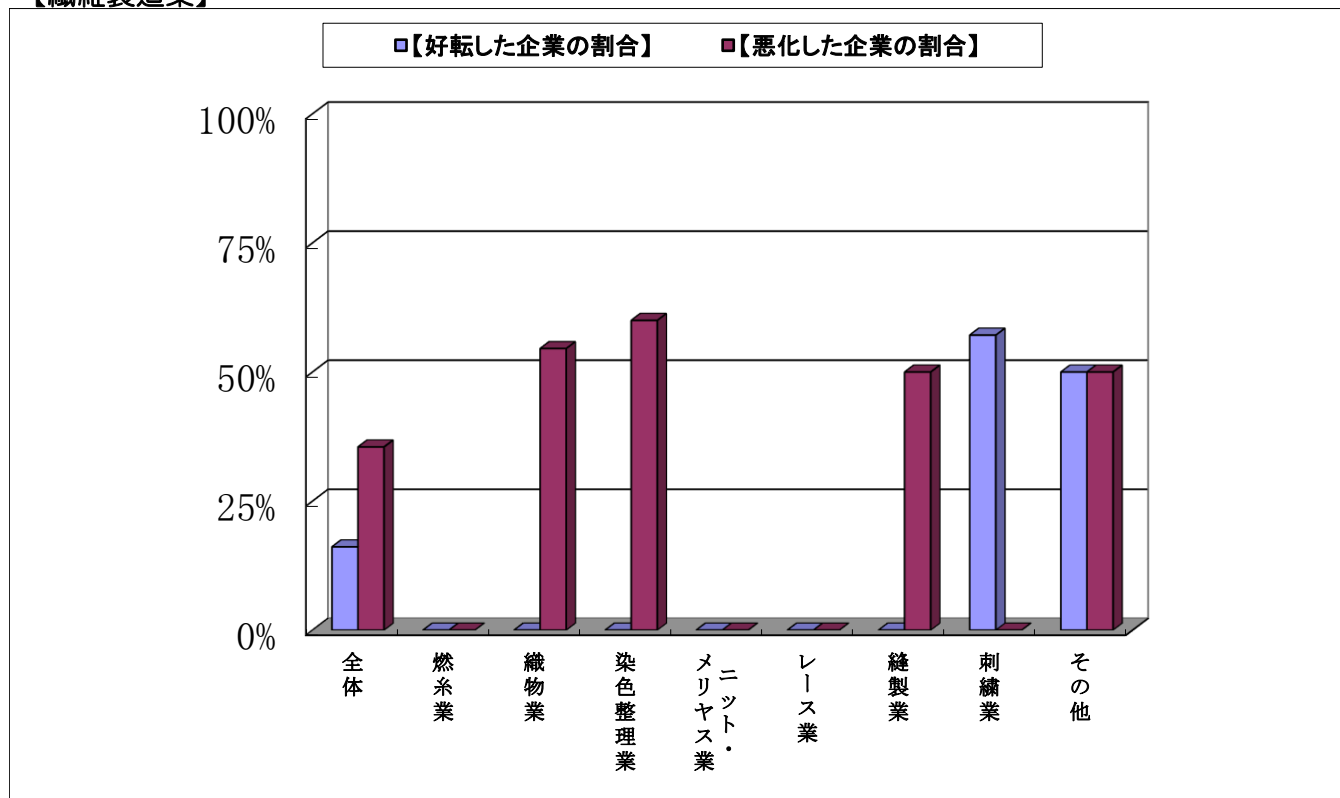
【商業・サービス業】



【機械金属製造業】



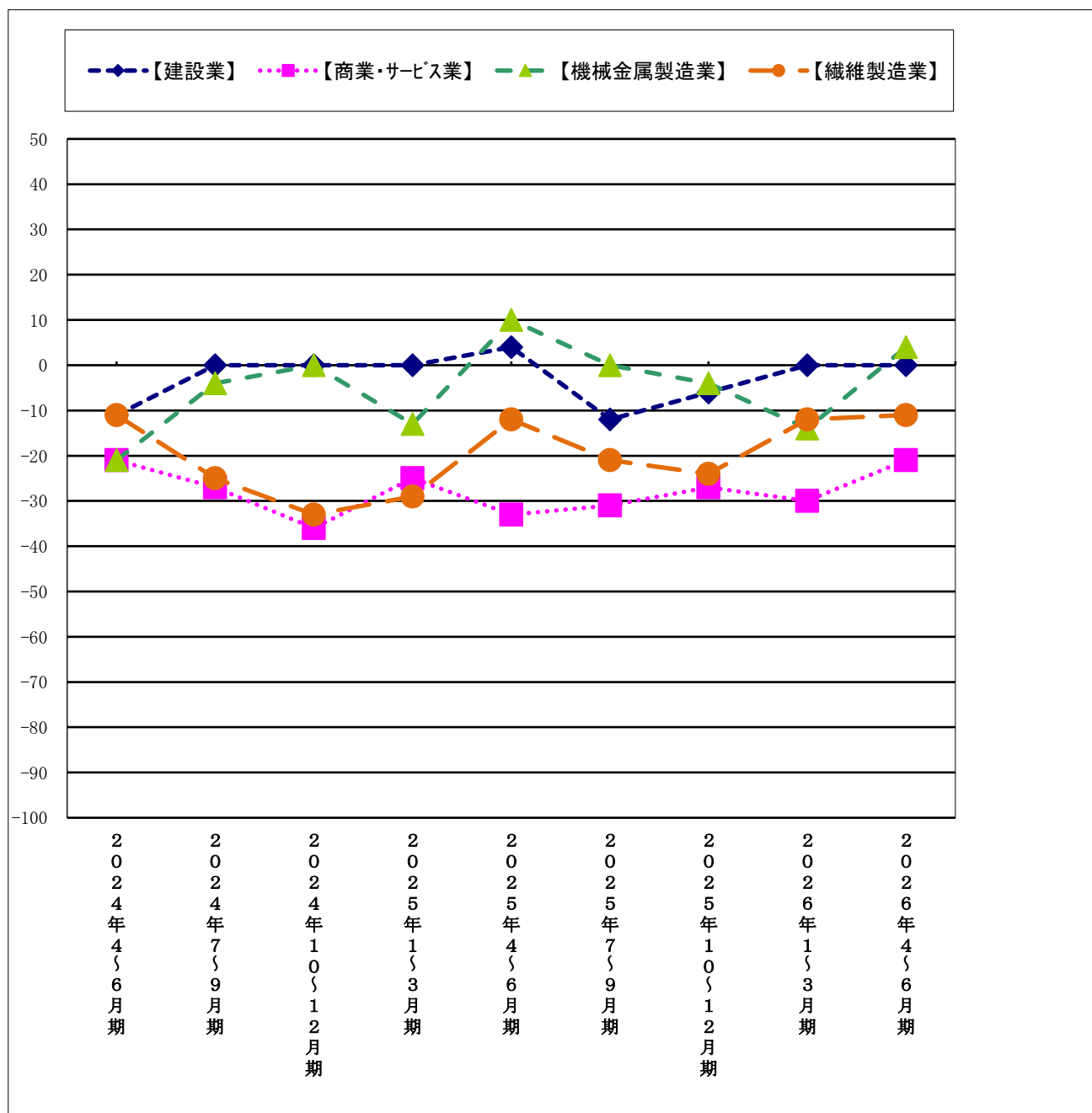
【繊維製造業】



資金繰りDIの推移

	【建設業】	【商業・サービス業】	【機械金属製造業】	【繊維製造業】
2024年4～6月期	-11	-21	-21	-11
2024年7～9月期	0	-27	-4	-25
2024年10～12月期	0	-36	0	-33
2025年1～3月期	0	-25	-13	-29
2025年4～6月期	4	-33	10	-12
2025年7～9月期	-12	-31	0	-21
2025年10～12月期	-6	-27	-4	-24
2026年1～3月期	0	-30	-14	-12
2026年4～6月期	0	-21	4	-11

[2024年4～6月期] から [2026年4～6月期]



今期直面している経営上の問題点

	1 位		2 位		3 位		4 位		5 位	
建設業	材料価格の上昇		材料の入手難		従業員の確保難		熟練技術者の確保難		民間需要の停滞	
	29. 8%		17. 0%		10. 6%		8. 5%		8. 5%	
前期	1位	19. 4%	8位	6. 5%	2位	12. 9%	4位	9. 7%	5位	9. 7%
前年同期	2位	14. 7%	11位	1. 5%	3位	13. 2%	5位	11. 8%	1位	16. 2%
商業・サービス業	材料等仕入単価の上昇		人件費の増加		需要の停滞		消費者ニーズの変化への対応		従業員の確保難	
	15. 5%		12. 3%		9. 0%		9. 0%		8. 4%	
前期	1位	14. 1%	4位	10. 1%	2位	13. 4%	3位	12. 1%	5位	8. 1%
前年同期	1位	16. 3%	2位	13. 6%	4位	10. 2%	3位	11. 6%	5位	8. 8%
機械金属製造業	原材料価格の上昇		人件費の増加		原材料費・人件費以外の経費の増加		従業員の確保難		製品単価の低下・上昇難	
	25. 7%		15. 7%		10. 0%		10. 0%		8. 6%	
前期	2位	16. 4%	1位	16. 4%	5位	10. 4%	8位	4. 5%	3位	14. 9%
前年同期	3位	12. 0%	4位	12. 0%	7位	9. 3%	1位	17. 3%	5位	12. 0%
繊維工業製造業	原材料価格の上昇		人件費の増加		需要の停滞		生産設備の不足・老朽化		製品ニーズの変化への対応	
	25. 6%		10. 3%		9. 0%		9. 0%		9. 0%	
前期	1位	18. 6%	6位	8. 6%	2位	14. 3%	3位	12. 9%	7位	7. 1%
前年同期	5位	10. 7%	7位	9. 3%	1位	16. 0%	2位	12. 0%	4位	12. 0%

事業所からのコメント（直面している問題点など）

〔建設業〕

- とにかく人材不足が現在大きな問題です。
- 材料費の上昇が先行き大きく経営上影響してくると思う。

〔商業・サービス業〕

- 事業の承継問題。（閉めるのか、続けるのか？）
- 食品メーカー、酒類メーカー共に我々一般小売業は相手にしていない。相手にするのは大手スーパーやコンビニなどのみ。
- 先がないです。
- 物価上昇による客数減。最低賃金上昇による人件費の増加。
- ナフサショックによる材料価格上昇に価格転嫁がとうてい追い付かず。
- 全体的にものが高くなっているためか、1人当たりの単価が前よりも少なくなっています。
- 石油関連製品が軒並み値上げしており、今後影響が長期化することが心配です。光熱費（特にガス代）の値上げ幅も大きく負担になっています。
- ネット社会の進出。価格の高騰。
- 物価高（仕入れコスト上昇→販売価格上昇）に賃金上昇が追い付かない。
- 物価高による消費の低下、買い控え、着物ばなれ。

〔機械金属関連業〕

- 原材料価格（特に鋼）の上昇による収益悪化に懸念。イラン情勢による原油、ナフサの価格高騰、さらに継続的な調達安定に懸念。
- 主力となる管理職に対して、日本人人材が確保できず、承継できない。
- 米国・イラン騒動で色々な資材がスムーズに入手できず。

〔繊維工業〕

- 後継者がいない。
- 原材料価格の上昇により、単価に反映されていない為、利益が少なくなっている。
- インフレで販売数が減少しているという理由でコストダウンを強いられている。